



# あすなろだより

2012年6月20日

発行 三重県立<sup>こども</sup>小児心療センター あすなろ学園 広報担当  
〒514-0818 三重県津市城山1-12-3 TEL. 059-234-8700 FAX. 059-234-9361  
MAIL: asunaro@pref.mie.jp URL: http://www.pref.mie.lg.jp/ASUNARO/HP/

## 三重県における児童精神科医療の50年

あすなろ学園長（医師） 西田 寿美

2012年度は、三重県に児童精神科医療が誕生して50年目となる年です。

1962年4月、京都大学から県立高茶屋病院に赴任してきた29歳の若き精神科医<sup>そがめしろう</sup>十亀史郎により、週3回の児童外来が開設されたのです。翌月5月には神経症病棟を利用して子どもの入院治療を始め、最初の自閉症児が入院し、1964年1月に児童病棟「あすなろ学園」が60床で開設され、就学免除の扱いを受けていた17名の自閉症児も入院しました。日本で最初の自閉症施設の誕生でした。アメリカのカナーが1943年に早期幼児自閉症を発表した20年後、1952年名古屋大学の鷺見たえ子氏による日本の第一号自閉症児報告の10年後でした。

当時の自閉症児は就学免除や猶予の対象であり、保育園や幼稚園への入園も断られるのが常でした。そういう状況で入院治療が始まり、1966年8月26日、NHKが「現代の映像」で、あすなろ学園における自閉症児の入院治療を、「孤独なたたかい」と題して全国版で放映したのです。これは大きな反響をよび、全国から自閉症児の親があすなろ学園に通院するようになったのです。

当時18歳の私は、毎日代々木の予備校に通っておりこの放映は見ていません。自閉症という診断名も知らない医学部をめざす一人の浪人生でした。

この映像のことを知ったのは、2008年にNHKから出演していた自閉症児の消息を尋ねられたことがきっかけでした。NHKライブラリーに残すにはご本人かご家族の了解が必要となるためでした。いろいろな伝を頼ってみましたが、結局ご両親は亡くなっておりご本人との連絡も取れないとのことで、この記念すべき映像記録はあすなろ学園にいただくことになりました。

NHKから届いたDVDを職員と見たとき、私には自閉症治療の歴史的変遷とあすなろでの治療の意味が一瞬で理解できたように感じられました。

映像の中の十亀先生は、古い治療法である遊戯療法やフィンガーペインティングを行っていました。病棟の様子も小児科病室のようでした。

私があすなろ学園に勤めるようになったのは、それから8年後の1974年9月でしたが、自閉症児は不登校の中学生と一緒に二段ベッドの8人部屋で生活していました。小児科病棟というよりは、寄宿

舎のような生活空間でした。

十亀先生は当時のことを振り返り、「始めは精神分析的な対応を入院治療で行っていたが、おしっこやうんちの問題は集団生活を困難にするので、しつ적인要素も大切だと気づき、子どもの生活と発達を大切にすることにした」と語っておられました。フィンガーペインティングについては、「あれをやると便こねする子が出て困った」と話されていました。

「障害児を普通の子どもとしてみると、いろんなことがよく見えてくる」と教えられたことがありましたが、聞いたときは意味がピンときませんでした。普通の子どもと比較することかとも思いましたが、それだけではないように心に残りました。

十亀先生の言葉は何か示唆に富んでおり、いつまでも残ることが多く、そしてあるきっかけに意味が見つけれることがあります。今の私は、この言葉を自らになぞらえてみることにして理解しています。出会ってきた自閉症の人たちも、子どもから青年、成人、中年、初老となっています。自らの生活と重ね合わせることで、理解できることが増えてきたからです。

「子どもと家族が人として当たり前的人生が送れるように」という願いを、これからも大切にしていきたいと考えています。



## ～あすなる学園 50年の歴史～

- 1962年4月 児童青年精神科医療の外来診療の開始（週3回）
- 1962年5月 児童青年精神科医療の入院治療開始
- 1964年1月 あすなる学園開設（定床60）
- 1967年4月 あすなる分校（小中各1教室）分教室として市教育委員会より認可されるとともに、あすなる分校が文部省情緒障害児教育研究指定校になる
- 1968年4月 あすなる分校、我が国初の情緒障害児学級として発足
- 1970年6月 年長児、自閉症児病棟新築（定床160）
- 1970年6月 外来診療充実（月～土）
- 1970年6月 自閉症児療育施設として厚生大臣の指定を受ける（40床）  
幼児通園グループ療育開始
- 1985年4月 「三重県立小児心療センターあすなる学園」として県立高茶屋病院より分離して開園
- 1995年4月 地域連携事業の拡充
- 1996年4月 「いじめ等子どものこころの相談班」を設置するとともに、臨床心理部門とデイケア・作業療法部門を独立させる

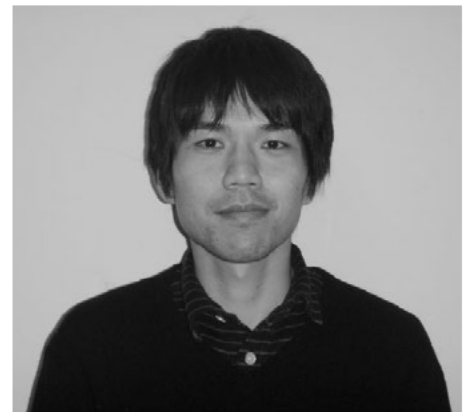
- 2001年6月 入院児の小児科診療を開始
- 2002年4月 デイケア・作業療法部門を指導室の部門とし、臨床心理室・看護室の3室体制による、入院・外来チーム医療開始
- 2003年4月 自閉症・発達障害支援センターを附置し、本格的運用を開始  
地域連携事業の見直しを行い、関係機関との役割分担を明確化した
- 2003年6月 外来療育部門で土曜日療育の開始及び水・金曜変則勤務による延長療育開始
- 2010年3月 自閉症・発達障害支援センターを廃止
- 2012年4月 児童福祉法改正により第一種自閉症児施設から医療型障害児入所施設へ変更



## 新任医師のご紹介

山村 哲史 医師

平成24年4月からあすなろ学園に来ました、山村哲史と申します。出身は三重県で、“忍者の里”伊賀上野に近く“さるびの温泉”が湧き出る伊賀市近郊ですが、残念なことに現時点では忍術は使えません。平成18年に三重大学医学部を卒業し、研修医を経て、精神科医となり、その後は三重大学病院や三重県内の精神科の病院に勤務してきました。精神科医を志してから、いつかは児童精神科医として働きたいと思っていたのですが、なかなか機会に恵まれず歳月が過ぎ、今年度からあすなろ学園に勤務させて頂くことになりました。自分が子どもの心について関心を持つことになったきっかけは、学校に行けなくなってしまった本人やそれに関わる家族の姿を身近で見たこと、高校生活で普通学級に通う発達障害（今になれば広汎性発達障害だったのかなと思います）の同級生が同じクラスにいたことによって、自分自身の無力感や周囲の知識やサポートの重要性を痛感し、そのような立場の人達に少しでも役に立つことができればと思ったことでした。今後はあすなろ学園の一員として、微力ながら学園に来る人達と一緒に協力して様々な問題に取り組み、子どもやその家族が困難や課題を乗り越えていく手助けができればと考えています。どうぞよろしくお願い致します。



三重県立小児心療センターあすなろ学園

## 講演会・シンポジウムのお知らせ

テーマ：これからの地域子育て支援を考える

日時：平成24年8月9日（木） 開場 9時30分 開演 10時

場所：三重県総合文化センター 文化会館 中ホール

### プログラム

#### 第1部 講演会（10時～11時30分）

演題：「あすなろにおける自閉症発達支援の50年 ―その歴史と課題―」

講師：西田 寿美（三重県立小児心療センターあすなろ学園園長）

司会：中島 弘道（三重県立小児心療センターあすなろ学園医長）

#### 第2部 シンポジウム（13時～16時）

テーマ：「三重県の発達障がい支援の現状と未来に向けて」

シンポジスト：稲田 久美子（NPO法人 特別支援教育サポートセンター）

近藤 裕彦（社会福祉法人檜の里 あさけ学園施設長）

高田 明裕（津市立高岡小学校校長） 【五十音順】

司会：中野 喜美（三重県自閉症協会会長）

西田 寿美（前出）

定員：900人 参加費：無料

申込み：ご所属・職種・参加人数を明記の上、FAXまたはEメールにて8月2日迄にお申し込みください（定員は比較的余裕があります）。

Eメールの場合は、件名を「シンポジウム申込み」としていただきますようお願いいたします。

問い合わせ先：〒514-0818 津市城山1丁目12番3号

三重県立小児心療センター あすなろ学園 医療連携室

電話：059-234-8700（内線332）

FAX：059-234-9361（FAX専用）

メールアドレス [asunaro@pref.mie.jp](mailto:asunaro@pref.mie.jp)



## 外来診療のご案内

（平成24年7月1日現在）

\*診察は完全予約制です。

都合により変更になる場合もあります。

●予約電話番号 **059-234-9700**

〔予約電話受付時間 9:00～12:00  
（月～金） 13:00～16:30〕

曜日	月	火	水	木	金
1診	中島	西田	大槻	大橋	西田
2診		中野 (第3,4)	石田		大槻
4診		中島	中野		中野